



8月3日、「昼の祈り」に臨む教皇（CNS）

教皇訪日を再要請

大司教2人バチカンへ

日本の2人の大司教が7月下旬、バチカンを訪問し、教皇フランシスコの来日を再び要請した。

日本カトリック司教協議会会長の岡田武夫大司教（東京教区）と副会長の高見三明大司教（長崎教区）は7月28日、教皇の来日を願う司教団の書簡を携えて、バチカンの国務省長官ヒエトロ・パロリ枢機卿や、福音宣教師長官フェルナンド・フィローニ枢機卿を訪ねた。

簡を手渡すことはできなかったため、教皇の秘書を通して届けた。日本の司教たちは昨年10月、教皇の来日を願う最初の書簡をバチカンに送っている。今年6月には安倍晋三首相がバチカンを訪れ、教会とは別に政府として教皇の訪日を要請する意向を伝えている。

司教協議会の常任司教委員会も今年7月3日の会議で、なるべく早く日本から司教がバチカンに出向き、教皇訪日の再要請をすることを決めていた。また教皇が8月中旬

の世界を越えて私たちに導いていきます。それは御父である神から始まって御父へと立ち戻る道だからです」

教皇フランシスコは、イエスが人里離れた所に退いても群衆が後を追ったとする福音書の物語が、共感につ

ス会総長のアドルフ・ニコラス神父なども同行した。列聖者は7月中旬、右近の審議に必要なすべての書類を受理して

「宿題」を出し、以後数日は「皆さんがいつも持っているはずの」聖書からその本文を繰り返して拾い読みする時間を持つよう促した。

教皇は真の幸福への道を説くとともに、イエスが「それに従って私たちが裁かれることになる。約束事」を私たちに「示したことに触れた。

「世の終わりに、私

おり、今後は省内会議や枢機卿会議などを経て、教皇の判断を得ることになる。

アマト枢機卿はまた、「蟻の町のマリア」

として知られるエリザベト・マリア北原怜子（さとし）さん（1929年―58年）が、来年半ばにも「尊者」になる可能性があるとも語った。

尊者は福音者の前の段階に当たる。

た口の教



アマト枢機卿（左から2人目）らと会談する岡田大司教（左）と高見大司教（右から2人目）。イエズス会総長のニコラス神父（右）も同行

聖職停止を解除

ニカラグアの元外相

【バチカン8月4日CNS】教皇フランシスコはメリノール宣教会のミゲル・デスコト・ブロックマン神父の聖職停止処分を解除した。デスコト神父は29年前、ニカラグアのサンディニスタ政権での政治的公職からの辞任

を拒否したため、司祭職の執行を停止する処分を受けていた。教皇は81歳のデスコト神父が公式に司祭職執行の再開許可を求めたことに応じて決定を下した、と8月4日、教皇庁広報局次長のチロ・ベネデッティ

「二神父（御受難修道会）が明らかにした。バチカン放送は、デスコト神父が「死ぬ前に」もう一度ミサをささげたいとの願いを書きつづっていた、と報じた。

聖職執行停止の解除を傳達する書簡には、